

授業科目 慢性期・リハビリテーション看護学

【担当教員名】 池田 京子、手島 美子		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 慢性期看護では、生活障害に焦点をあて、長期的な疾患を持つ対象に対する生活の変化と療養バランスを保ちつつ最良な健康状態を継続していくことができるよう援助するための理論と方法について学ぶ。さらにリハビリテーション看護では、その人が生活を再構築し、最適生活を営むために必要なリハビリテーション看護のあり方と方法を理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 慢性看護学の概念を学び、慢性・長期的な健康障害のある人およびその家族の特性をふまえ、健康維持のために必要な支援を行う 2. 慢性・長期的な病をもつ人のQOLの向上、病を持つことにより発生する心理的要因を理解し支える家族と共に支援する 3. リハビリテーション看護学の概念を理解し、リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解する					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
1	ガイダンス			1	講義
2	慢性・長期的な健康障害を持つ人および家族の特徴（自己概念ほか）			2	講義
3	セルフケアへのアプローチ（セルフマネジメント・症状マネジメント・教育的支援・社会資源の活用など）			1.2	講義
4	主な治療と支援（服薬遵守の必要性、症状の変化など）			3	講義
5	リハビリテーション看護学の考え方を理解する			3	講義
6	リハビリテーションを必要とする人とその家族の特徴を理解する			3.4	講義
7	リハビリテーション看護に有用な概念・理論（QOL・セルフケア・自立・協働など）			3.4	講義
8	経過別のリハビリテーション（急性期、回復期、維持期など）			3.4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		必要時指示する			
参考書		運動機能障害	富重佐智子	HIROKAWA, MC メディカ	2006・3,200円＋税
		呼吸・循環機能障害	深谷智恵子	HIROKAWA, MC メディカ	2006・3,000円＋税
		慢性疾患の病みの軌跡	黒江ゆり子	医学書院	1995・2,835円＋税
その他の資料		教員作成の資料			
【評価方法】 中間評価－テスト45点 最終評価－レポート45点 出席評価－10点			【履修上の留意点】 授業でできることは限られているので主体的に学習することを望みます		